

「里海づくり」の研鑽、オンライン会議による小冊子の編集作業

備前里海・里山応援団

活動の目的

これまでの国際ボランティア学生協会「IVUSA」の日生諸島活性化活動を基軸に、地球規模で起こる災害や課題(温暖化・ごみ問題等)を自分事として捉え、身近なところからできることをボランティアの大学生達と考察することから始め、コロナ禍で滞在交流は厳しくなったが、備前市にある文化財や地域資源の「里海・里山」自然環境を守り、次世代に繋ぎ持続可能な社会にするために活動する。教育文化芸術を通じて若い世代に表現し、地域住民と共に「環境保全」の活動継続を図り、応援する目的である。

今後の交流時や座学で使用する印刷物(小冊子)、作品・パネル展示してカタチに残すことで次への活動の継続性を図る目的である。

活動の内容及び経過

コロナ禍のため当初の「IVUSA」の地域活性化活動、滞在交流実施は中止。変更を余儀なくされ、オンライン会議による情報交換を重ね、実施の可能性を探る。活動実施に向け一つの目標は、これまでの日生漁師さん達の三十数年にわたるアマモ場再生活動に焦点を置き、もっと広く『里海づくり』や海の変化、海ごみの問題を知ることで情報共有すること。そして入口としてみんなが『里海づくり』をわかりやすく知る小冊子の作成にすることに決定する。若い感性による発想や知らないからこそできる創造性や気づき・興味を引き出し、変更後も活動実施イベントの可能性を探りながら、小冊子作成利用に向け、内容確認や資料の収集・研鑽する。年度が変わり学生の卒業やメンバーの入れ替わりもあるが、引き継ぎ制作中である。

活動の成果・効果

大学生との交流は難しい中、地元小学校の出前授業で『海ごみ回収』を体験した生徒さんは、身近にある海ではあるが、「実際にこんなにゴミがある！ 何でこんなゴミがあるの?」「眺めているだけの海だったが、もっと海を大切にしようと思う」など様々な体験学習から生まれる声には実感とリアリティーがある。船に乗り海や海岸に出て実体験を通して親子の会話の報告も聞こえてくる。海に近い環境の子ども達でさえ「海離れ」が指摘される現在、安全に自然に触れ親しむ機会を作ることも『環境保全』の大切なことである。地域以外の大学生と地元小学生との交流は実施できないが、子ども達は「なぜ大学生(ボランティア)が来るのか?」大学生達は「何を体感して帰るのか」、この双方が交わることで起きる発見や気づく成果がある。また小冊子が導入に果たす役割や効果が期待され関係人口が増える。



IVUSAとのオンライン会議



海ごみ・マイクロプラスチック調査



出前授業風景



地元小学生のポスター制作展示

今後の課題と問題点

世界で猛威を振るうコロナ。今後は実体験や直接の人間同士の交流を阻まれ、制約される中で新たな生活様式の中での活動内容の課題、大多数での実施の問題点があがる。実施活動内容以外のところで宿泊場所(人数)、交通手段・衛生面・他地域からの移動による風評被害など様々なコロナ対策費用や経費の必要性が生まれる。コロナ対策を万全にした上で「マイクロツーリズム」に代表されるように地域に目をやり、人々の交流の仕方、フィールドワークや地域の魅力・資源・歴史風土・環境等に視点を向け、足元を掘り下げることがいかに大切であるか、その地域の真価が問われる。コロナ前と後での「地域活性化」の課題や問題点も変化している。自然環境が突然変化したり私たちの想像以上に災害も多い地球のSOSに耳や感性を働かせて、次世代にどう引き継ぐかである。

- 代表者：山形忠正 ●所在地：備前市畠田
- TEL：090-2567-5886 ●E-MAIL：info@creeco.net
- 設立年：2017年 ●メンバー数：30名